

## 質的データ分析によるスポーツ少年団の研究

岡田 猛 藤島仁兵 鬼塚幸一\* 山下孝文\*\*

### A Study on Junior Sports Club on the Basis of Qualitative Data

Takeshi OKADA Jinpei FUJISHIMA Koichi ONITSUKA

Takafumi YAMASHITA

#### 1. は じ め に

昭和52年度のスポーツ少年団本部の調べによると、全国でのスポーツ少年団の規模は、団数15,831, 団員数198,176人となっており、スポーツ少年団が小学生を主な対象とした主要な社会体育の場になっていることは明らかである。

ところで、近年、少年団の活動のあり方に対するさまざまな批判も耳にするところである。先般の地元新聞の投書欄にも「スポーツ少年団に行き過ぎ」と題する、次のような匿名の主婦からの投書が掲載され、物議をかもした。<sup>注1)</sup>「小学校の対外スポーツ競技は、制限されているときいています。ところが最近、各種スポーツ少年団の活動が盛んになってきました。なかにはそのスポーツ少年団の練習を毎日欠かさず、しかも数時間も練習しているところがあるようです。いろんな試合があり、その勝敗にとらわれ過ぎているところに原因があるようです。対象者はまだ年若い小学生です。どんなによいねらいがあっても、子供たちの練習ぶりを見ていると、どこかに欠陥があるような気がします。子供には夕方するべき仕事もあり、また自由な時間もあるべきです。学校体育としては対外スポーツ試合に対して消極的なのですから、社会体育側の考え方をよく考慮したうえで、活動すべきだと思います。それにスポーツ少年団の指導者には学校の先生が多いということですが、その先生方は本務の学級経営のほうはどうなっているのでしょうか。おろそかにされている点はないでしょうか。関係当局はすぐ少年団活動の実態を調査し、もし好ましくない点があったら一日も早く善処してください。」

これまでにも、スポーツ少年団については、その指導者を中心にして、実態の把握と今後のあり方の検討を目的として少くない調査がなされてきた。われわれは今回、新しいデータに依拠して、これまでの調査結果を踏まえつつ、スポーツ少年団の実相にせまりたいと考え、この研究を行った。

\* 鹿児島工業高等専門学校

\*\* 鹿児島短期大学

## 2. 方 法

言うまでもなく、社会現象を分析・解明する方法として社会調査法がある。そこでは、統計的調査法による数量的データと、事例的調査法による、手記、日記、小説などの質的データが用いられる。前者が、(1)追体験的な了解可能性の稀薄さ、(2)総合的、多次元的な把握の困難さ、(3)変化のプロセスや可能性に関する動的な把握の困難さ、という固有の欠点を持ち、「たしかだがおもしろくない」分析に終るのに対し、後者は、(1)事例そのものの「代表性」の保証がないので普遍的な法則を導き出すことが困難である、(2)分析の手順や着眼点を「標準化」し難いために、不正確な観察や恣意的な推論の入りこむ余地を与える、という固有の弱点を持ち、おうおうにして「おもしろいが、たしかさがない」立論になりがちである、といわれている。そこで二つの方法、データの統合方法として、安田、<sup>注2)</sup> R. White,<sup>注3)</sup> Lazarsfeld & Robinson<sup>注4)</sup> 等がそれぞれ独自の手続きを提案しているが、見田はそれらのいずれもが二つのデータのもつ独自の強みを犠牲にした単なる折衷であるとして、図1に示すような多段式の分析法を提案している<sup>注5)</sup> のでこの考え方をとりたい。

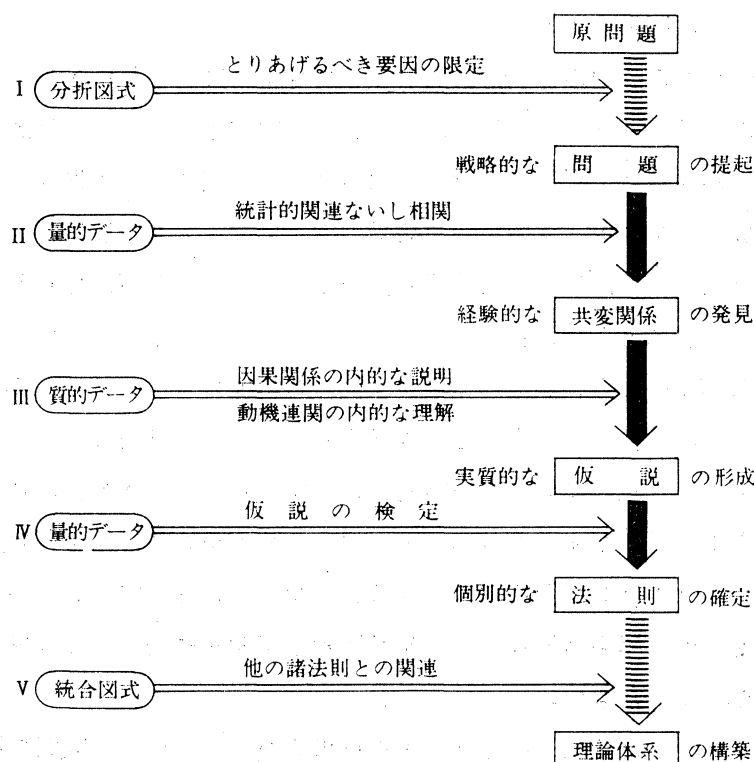


図1. 見田による多段分析の設計

ところで、今回用いたデータは、図2に例示したように、指導者、モットー、戦績等を紹介した「横顔」と、団員の作文である「団員の記」からなる、昭和52年度一年間の読売新聞鹿児島版に掲載されたスポーツ少年団の紹介記事38片である。内容、掲載の選択基準（地域別、申し出）からみても質的データとして取り扱うのが適当であると思われるので、見田の提唱する多段式分析法の第Ⅲの局面として位置づけし分析した。

# 小さな学校でも やればできる、

横 頭

指宿市内の小学校で、一番小さな魚見小学校の児童たちが、結成しているが、みんなとても熱心。練習にも力がこもっている。指導監督に当たっているのは、指宿郵便局勤務の諏訪園一行さん(三七)。

「小さい学校だからといって、いじけてはダメ。子供たちにやればできるのだという自信をつけさせるために結成した」といふ。

練習は毎日曜日の午後から三、四時間で、たっぷり鍛え上げる。

中には涙を流す子もいるが、チームから去る者はまだ一人もいない。練習が終われば、いろいろな相談に乗ってくれる、やさしいおじさんだからだ。監督であるばかりでなく、ソフトボールの審判免許を持ち、校區、市民体育大会、

市内の各ソフトボール大会に引張り出されて、休む暇もない忙しい人だ。

▽設立 四十八年  
▽団員 十八人  
▽戦績 今年三勝五敗



〈え〉 魚見小六年 二石 誠也



が大好きだ。それだけかんとくを尊敬しているのだとほくは思う。ほくは、ソフトボールを通じて、健康でいようかなと、根性を作ろう。これからはがんばって練習しよう。来年はいよいよ中学生。こんどは、野球部にはいってがんばろう。

## くじけずに やり通すゾ

魚見小  
6年 福重 健創

四年生のとき、みんなにすすめられてこの魚見スポーツ少年団にはいった。今はもう二年目だ。キヤプテンに選ばれている自分が信じられない。レギュラーになりたいと思うて、いかに夢のよう。今年が小学校最後の年でもあると、こんなことをしはじめている。

はいってまだまもないころ、いっしょにはいった友人たちは、次々とやめていった。しかし、今ではやめるものはいなくなつた。

同級生が三人もいる。それも一人は転校生だ。ほくは、魚見の六年生はいくじがないといつも思う。監督の練習をきついで、と中でやめてしまふのはとてもだらない。ほくも何度「やめたい」と思ったがしれない。しかし、くじけず、今までやってきた。あと少しの間「いっしょうけんめいがんばろう」と心の中で思っている。

## こわい監督 なぜが好き

魚見小  
6年 前園 昭喜

ぼくたち魚見ソフト少年団は、毎週日曜日の午後四時からソフトボールの練習をしている。六年は三人、五年は七人、四年は一人、

した気分になる。これからはかんとくはじめ、みんながんばっていきたいと思う。

ぼくは、今年一回もやすまず練習をやっている。夏休みのときは、暑い日がついて「いっそのことやめようか」と思った日もあった。だけど、その日のその時間になると、自然に練習に行く。

「それだけソフトボールが好きなんだなあ」と思ったりする。

## 団員の記 きびしい練習に 充実感

魚見小  
5年 八木精一郎

ぼくは、もうスポーツ少年団に入つて三年になる。今までに何回も試合をしているが、かんとくが

いつも試合のまえに口ごせのよう「相手チームは、相手チームがどんなにたいやじを言つても、よいプレーを見せてくれたら、はく手をすく気持がないとダメだ。勝ち負けにこだわらな。おもいきつてやれ」といふ。ぼくたちは「よしがんばるぞ」といふフアイトがでる。

試合中には父兄がおうえんしてくれるが、なんだかんだいっただかんとくのかけてくれる言葉がないと、試合中に落ち着かない。練習の時はノックをしながらも「しつかりせんか」とまるで人がかわつたように、すごくこわい。夜暗なうてユニホームを真っ黒にして帰ると、ほんとに練習

図2. \*チェスト行け、の一例

### 3. 結 果 と 考 察

今回の研究をするにあたり、先行研究として分析した、少年団に関する統計的調査は表1の通りであり、そこで取り上げられている主要因の連関図は図3のようにまとめられる。これは見田による多段式分析法の第Ⅱの局面に該当する段階である。個々の要因項目における各調査結果間の異同、傾向については、見田の第Ⅳの局面で必要となってくるが、ここでは今回の項目にレリヴェントな項目のみを必要に応じて取り出すことにとどめる。

表1. 分析の対象とした、スポーツ少年団に関する統計的調査

番号	テ ー マ	調 査 者	掲 載 誌	発表年月
1	日本スポーツ少年団の現状とその問題点 —東京都を中心にして—	木 村 他	体育学研究 XI—5	1967.7
2	日本スポーツ少年団の現状と問題点	木 村 国 次	体育学研究 13—5	1969.7
3	スポーツ少年団指導者に関する調査	金 子 他	体育学研究 13—5	1969.7
4	スポーツ少年団の実態に関する一考察	葛 西, 松 坂	北海学園大学・学園論集 14巻	1969.
5	サッカースポーツ少年団に関する調査研究	田 中 他	体育学研究 14—5	1970.7
6	長崎県下における社会体育の展開(第1報) —県下スポーツ少年団(指導者の実態を 中心として)に関する調査—	松 尾, 岡 崎	長崎県立国際経済大学 調査と研究 第2巻第1号	1970.9
7	スポーツ少年団指導者に関する社会学的研究	金 崎 良 三	九州大学体育学研究 第5巻第1号	1973.10
8	社会体育の指導者に関する研究(第2報) —三重県における社会体育指導者の種別 による活動の実態と意識—	藤 田 他	三重大学教育学部研究紀要 第5巻第1号	1976.
9	スポーツ少年団実態調査報告書 1975	日本スポーツ 少年団本部	報 告 書	1976.3

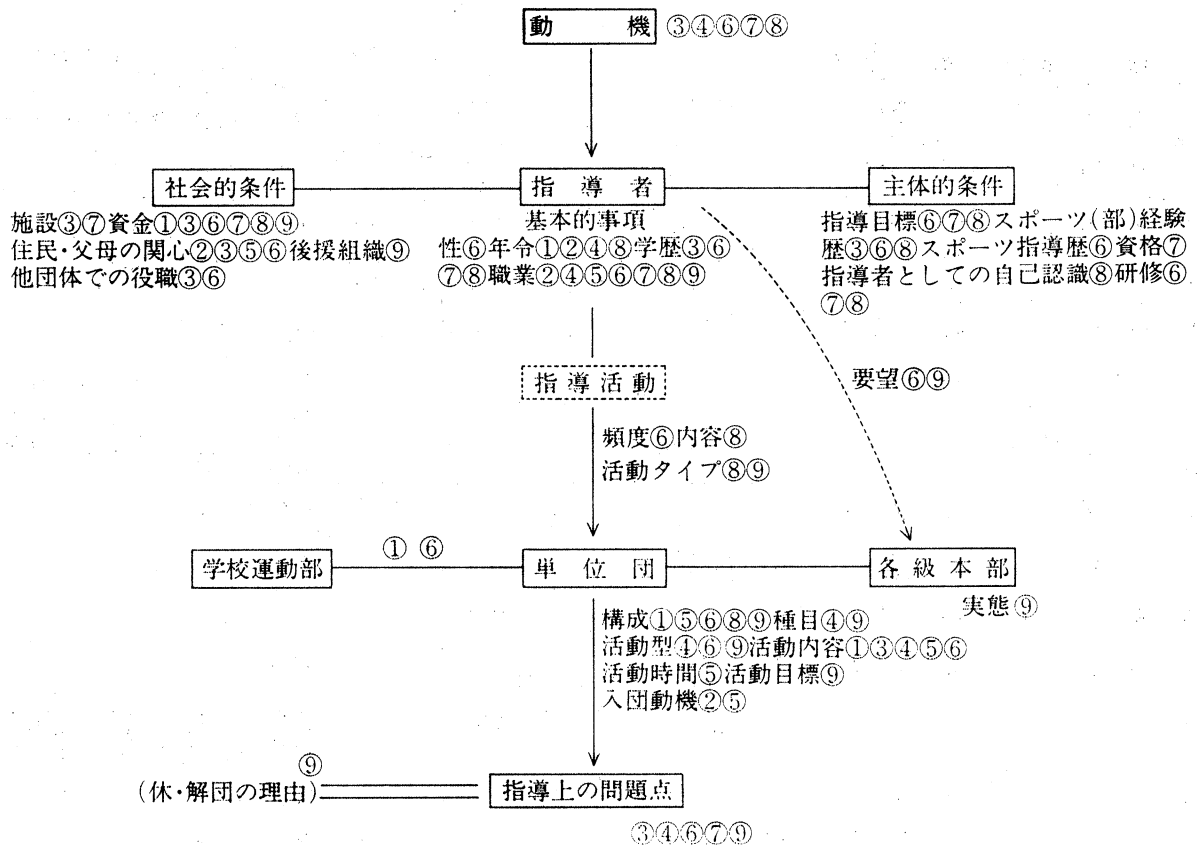


図3. これまでの統計的調査で取り扱われた要因連関図

表2に示したのが、今回の研究で用いたデータの概略的な分析表であるが、そこで見られる幾つの特徴点、問題点を、先の要因連関図における分析と可能な範囲で対照するという形で考察を進めてゆきたい。

(1) 種目をみると剣道をはじめとして、当該年令の学校では正課体育として採用されていない種目が多種目にわたって高い割合で採用されているが(全国レベルでも同じ④⑨)、これらの種目では指導者の方針がストレートに団員に伝わる傾向もあり、<sup>注6)</sup> 指導方法とも絡んで、教育的配慮が必要になってくる。

(2) 練習時間についてであるが、前述した投書にもあったように、練習時間の長さは、剣道、空手といった格技に特に顕著である。これは種目の特性によることもあるであろうが、毎日早朝1時間、午後1.5時間の練習を課している少年団の団員の手記に、「試合前の時は日曜日も練習がありました。そんなときは、『どうしてわたしは、剣道部にはいったのだろうか』と思うこともありました」<sup>注7)</sup>とあるように、団員にとって時に苦痛を感じさせることになっている。なお、調査⑤によると1日平均2～3時間の練習をしている団がサッカーにおいても56.7%ということであり、全体的にみても練習時間が多い傾向が伺える。

表2. 「チェスト行け」の分析表

団	種 目	単位団の構成	指導者の職業・年齢	練習時間	団としての目標・モットー	「団員の記」にみられる団活動の価値認識
1	柔 道	学校 人 小 (32)	教員 商業 (41)	日曜日 1時間	社会のためになる人づくり	健康 礼儀 規則正しい生活
2	剣 道	小中 (19) (9)	公務員	毎 日 午後2時間	礼儀 根性	根性 気力
3	剣 道	小 (52)	商 業 (57)	毎 日 朝1時間 午後1.5時間	礼の精神 基本技術	動く体 じょうぶな体 試合
4	海 洋	小中 (50) (10)	会社役員 (50) 公務員	土曜日 2時間	海に学び海に鍛えよう	体力 気力 母親の心ざし
5	卓 球	小 (44)	公務員 (47)	日曜日 3時間	体位・体力の向上	練習の大切さ
6	ソフト	小 (23)	商 業 (38)		礼儀 根性	たくましい体とりっぱな心
7	空 手	幼・小 (100)	教 士	年中無休	男らしく女らしく	明るく 強く正しい人 男らしく 礼儀正しい強い体 友達 根性 道着
8	弓 道	中 (13)	教 員 (49)		立派な子供 (真・善・美)	継続は力なり
9	卓 球	小 (17)	教 員 職 員	昼休み 放課後		もっと強くなる
10	野 球	小 (20)	中・高校生		大会出場	早く試合に出る
11	複 合	小 (42)	商 業 (31)	日曜日 2時間	根性 体力	団員の和
12	ソフト	小 (31)	父 兄	週2～3回	校外指導 のびのびした子ども	運動しんけい じょうぶな体 がんばる気持 協力 努力 親子の練習試合 ぜんざい会
13	ソフト	小 (45)	父 兄 (42)	日曜日 4時間	体力 根性	技能の上達 礼儀 優勝
14	複 合	小～高 (45)	体・指 (48) 公社員 (25)	水・土・日	ウソをつかないけんか をしない なまけない	友だち 体力 気力 チーム ワーク
15	空 手	小・中 (22)	公社員 (48)	土曜日 3時間	親ぼく	丈夫な心とからだ 仲良し れいぎ 気力 なかない
16	剣 道	小 (11)	公社員 (49) 教 員 (51)	毎 日 1.5時間		くじけない強い心 ぜんざい会
17	ソフト	小 (47)	建設業 (47)		けじめがつけられる子ども	優秀な成績 体力 学力 礼儀作法
18	サッカー	小 (27)	商 業 (42)	火・木・土 1.5時間	不良防止	練習のくりかえし 助け合い
19	剣 道	小 (52)	神 職 (58)	毎 日 1時間	日本人の心 最後まで やれ うそをつくな	早起き あがらない れいぎ
20	ソフト	小 (32)	公務員 (41) 製造業 (44)	水 2時間 土 5時間	根性 チームワーク	友だち 優勝 チームワーク 試合
21	ソフト	小 (35)	教 員 (24)	毎 日 放課後1時間	素直 協調性 礼儀 明るさ	早起き 体力 技術向上 やる気
22	剣 道	小 (18)	教 員 (48)	週に4回 1時間	根性	がまん強さ 礼儀 根性 苦しみをのりこえてがんばる
23	剣 道	小 (45)	公務員 (48,49) 商 業 (21,22)	月～金 放課後3時間	健康な心身 迷惑をか けない 最後まで頑張 る 隣人愛 郷土愛	どきょう 根性 努力 忍耐 まき任 尊敬 健こう ほがらか
24	サッカー	小 (27)	教 員 (23)	午 前 1時間 放課後	体位向上ファイトある 子ども 礼儀 ルール	しあい 優勝
25	野 球	小 (40)	公務員 (22) 商 業 (39)	火～土早朝1時間 間 日午前3時間	努力 根性 意志の強さ 明朗 礼儀 奉仕親ぼく	仲間 根性 じょうぶな体と 心 がまん強さ ねばり強さ
26	バレー	小 (21)	教 員 (30) 公務員 (38)	平日の午後 1～3時間	和 勉強との両立	根性 和 勝利 病気にか からない
27	複 合	小 (42)	教 員	毎 日 2時間 夏 休 3時間	耐える	チームワーク 心身をきた える
28	剣 道	小 (32)	団体役員 (64) 会社員 (46)	毎 日	体力 礼儀	礼儀 体力 根気 何事にも 打ち勝てる精神力 ぼうぐ
29	ソフト	小 (32)	会社員 (41) 教 員 (43)	週 3 回	根性 粘り 協調性	体力スターティングメンバー 生活時間の変化根性精神の鍛 練 チームワーク 苦しみにかつ

30	剣道	小 (24)	公務員 (29) 公務員 (24)	毎日	体力 粘り強さ 根気 強さ	勝利 でんとう 体力 病気をしなくなった
31	剣道	小 (55)	教員 〃	毎日 放課後1時間	身体 鍛練 規律	防具
32	卓球	小 (22)	教員 (26) 農業者 (21)	〃	強い意志 練習の大切 さ	努力すればなんでもできるよ うになる 強くなる
33	複合	小・中	医師 (46) 工業 (36) 商業 (28)	休みの午前中	体力 親ばく	体力 精神力 共同生活 (キ ャンプ) 病気をしない
34	ソフト	小 (18)	公務員 (37)	日曜日 3~4時間	やればできる自信	健康 じょうぶな体 根性
35	野球	小 (13) 中 (10)	公務員 (33) 〃 (25)	土・日を除く 放課後	体力 チームワーク	技術 試合 力を合わせる かぜをひかない
36	剣道	小 (12)	商業 (47) 会社員 (49)	火・木・土 2時間	根性 健全	防具 試合 じょうぶな体
37	剣道	小 (32)	教員 (30) 公務員 (40) 公務員 (38)	土・日を除いて 1.5~2時間	体力 礼儀 根性	努力 根性 心と体をきたえ る 防具 父兄からの差し入 れ
38	ボート ボール	小 (35)	教員 (32)	毎日 1.5時間	体力 根気 協調 心 身の健康 ルール	強い心とからだ いやなこと を忘れる チームワーク

また活動の時間帯にしても、放課後4時からといった団で教員が指導者となっている事例が散見されるが、勤務時間との関係でどうなっているのか、学校体育と社会体育の関係、スポーツ少年団に対する認識に混乱がみられる。

(3) 団としての目標、モットーは、指導者の指導目標とオーバーラップするか、強くそれを制約すると考えられるが、ここで目につくことは、根性、礼儀、意志力といった精神主義的なカテゴリーの多さである。これまでの調査⑥⑦では、15~19%の割合を示しているが、鹿児島県の地域性がこの辺にも出てくるかどうか、統計的調査の必要がある。また、このカテゴリーを指導目標としている指導者に教員が少なからず見られるということ、つまり学校体育の領域では容易に提示しえない根性づくりなどの目標が、少年団の指導では教員の採用するところとなっていることは、教員の現在の学校体育についての考え方の不徹底さを示すと同時に、社会体育の場においては教育の論理よりもスポーツ種目の論理が優先するのではないかという仮説が導き出せる。

(4) 団員の記、にみられる、団員の団活動における価値認識、つまり団活動でどのようなことを目標にし、どのようなことが身につく、どんな楽しい、うれしい、または苦しい感想をもっているかを分析してみると、やはり根性をはじめとする精神主義的な価値が目につく。これは先述した指導目標の「うつつ」の容易さにもよるが、団員の側でも、団活動は学校体育とは違うんだという意識が強いのではないかと推察される。

さらに重要な問題は、「根性」などの用語を団員がどのような意味で用いているかである。「サッカーを見ていたら、おもしろそうだったので、入部してみたが、つまらなくて、すぐやめてしまった。このような経験から、どうしても根性をつけなければいけないと思った」<sup>註8)</sup>と述べられているように、つまらなく受けとらせる活動内容、指導方法のあり方を抜きにして、ただ一定の活動を所与のものとして継続していくことと解されているように思われる。父兄・指導者・団員などが根性をどんなふうに理解しているかを詳しく解明し、発達段階をおさえた科学的指導法との調和を

はかる必要がある。

(5) 日本特有のスポーツ的心情として、<sup>注9)</sup>「勝っては涙負けては涙、といった勝利至上主義的傾向が指摘される。バレーボール大会出場者の感想文では、『ジュースが二、三度続いたが、最後の力をふりしぼってがんばった。みごとに勝った。その時のうれしかったこと。わたしは、うれしなきをしてしまった。Aチームの人たちから『よかったね、よかったね』といわれてまたないた』<sup>注9)</sup>と記されているように、団活動では小学生の段階にもそのまま日本固有のスポーツ的心情がおりてきているようである。

(6) 次の「団員の記」にみられるように、指導者と団員の間には、情念を中心とした人格的結合が顕著であるといえる。「毎年のように一回戦で敗れてくやしがついているところへ、今の〇〇さんが来て『くやしいか、くやしかったら、おれについてこないか』と言った。そのことばがぼくの心にひびきわたった。『よし、この人についていけるだけついていこう』と思った。その人はぼくたちといっしょに笑い、いっしょに苦しみ、いっしょに泣いた。そのことがいちばんうれしかった」。<sup>注10)</sup>これは指導者の団員への影響力が大である<sup>注11)</sup>ことを意味するが、しかし指導者の指導理念や人格に問題がある場合は弊害もまたはかりしれないものがある。その点、もっと指導者の資格等に留意すべきであり、研修の場を増やす必要があるだろう。<sup>注12)</sup>

(7) 団活動を継続していく上で、後援会組織の存在や父母による差し入れは大きな力になっている。又剣道で、はじめて防具を買ってもらって着た時の感動が度々述べられているように、ユニフォーム、用具の購入等も団活動の継続に大きな力となっている。

以上、今回用いたデータを分析することによって幾つかの知見を提示することができた。そのうち種目や練習時間、団のモットー等は、これまでに調査された項目の意味づけという性格を与えられるものであり、「団員の記」から抽出された幾つかの知見は、これまでに調査されたことがほとんどないこともあって、次の段階の統計的調査にあたっでの仮説となるものである。

注1) 1978.6.8 南日本新聞。なお、この投書に対して、6月18日、同紙に「現場指導者に聞く」として解説記事が掲載され、6月26日には次の投書が掲載された。

「スポーツ少年団に対して種々取りざたされているが、その中にお互いの利己的な考えの現れだと考えられるものが多い。

指導者はがんだ迷であってはならない。保護者は子供の将来性や社会性を考慮に入れ、自主的行動力の育成につとめるべきであり、少年たちはスポーツ精神を体得することである。三者が一体となることが理想であろう。少年たちの入団は『カッコイイ』から、すきだからであり、指導者や保護者はミスがないよう心がけるべきである。

先日、匿名希望の婦人の投稿があったが、指導者は学校の先生が適当である。児童の心理や体力をよく理解しておられるからである。

また学級経営はどうか？という疑問は、失礼ないいかただと思う。体育に熱心な先生は、他教科にもすばらしい成果をあげている。

毎週土曜日の午後、国分市の中央の小学校の指導を見て、軟式野球やサッカー、ソフトボール指導の先生の苦勞、P.T.Aの指導者の適切なコーチ、熱心な児童の体得にほのぼのとしたものを感じている。



しかし全体的にながめて立派のようでも団員の個々には悩みもある。適当な指導が団員たちの明るい毎日となろう」

注2) 安田三郎：社会調査の動向と調査論，尾高・福武編「20世紀の社会学」ダイヤモンド社所収 p.371 1965  
両調査法の総合として，「①多数の事例についてエキстенシヴに，②しかもその多数の側面を全体関連的にインテンシヴに，③客観的な計数または計量によって把握し，④主観的洞察を含みながら可及的客観的分析法によって普遍化を行なう調査研究」，換言すると「統計的インテンシヴ・メソッド」の成立を主張している。これに対しては，「すくなくとも当面の調査と技術とスケールを考えた場合，安田のいう方向に調査方法が発展してゆくことには疑問がある」という批判が出されている。

福武・松原編：社会調査法有斐閣双書 p.30. 1967

注3) Kluckhohn, C; "Values and value Orientations" in Parsons T and Shils. E (eds) : Toward a General Theory of Action, p.405. 1951

White は，価値意識の分析において，文献の中の Good, Happiness, Peace などの価値語を記号化し，算定することを提案している。

注4) Lundberg; Social Research pp.435f 1942 彼らは，例えば「利己主義～愛他主義」などの連続体を定義し，「質的」データの中からこの連続体に乗っている項目を決定し，連続体上の位置に応じて数値と符号を与え，すべての項目にわたる平均点をもって，その人の利己主義↔愛他主義軸上の位置を決定する，方法を提案している。

注5) 見田宗介：現代日本の精神構造 弘文堂新社 p.181. 1964

注6) 表にみられる通り，特に格技等において，「団としての目標・モットー」と「団員の記」にみられる価値語の一致度の高いことが窺われる。

注7) 読売新聞 2月5日

注8) 同上 1月29日

注9) 同上 8月20日

注10) 同上 4月23日

注11) 細かい技術的な面まで，指導者の好みが強制されている場合もあるようである。

「試合の時，メンやコテをうつと『ドウをうたなか。なぜコテドウにいかんのか』と，しかられる。そんな時，〇〇さんに向っていきたくらいになる。……でも，コテドウをうってかてば，にっこりされる。そういう時は，ぼくもスカッとする」 読売新聞 6月4日

注12) 研修の経験のない指導者は，調査⑥で74.8%，⑦で57.6%であり，調査⑧によると66.1%の者が自己の指導能力に満足していない。

(1978年10月16日受理)